

令和 6 年度仮置場設置・運営訓練 計画書

令和 6 年 9 月 13 日

青森県・一般財団法人日本環境衛生センター

1. 訓練の概要

青森県、八戸市及び県内廃棄物処理業者等が連携し、八戸市における仮置場候補地等を対象として、仮置場の設置や管理運営に係る訓練を実地で行う。

2. 実施場所

八戸市一般廃棄物最終処分場敷地（青森県八戸市大字櫛引字湯ノ沢 2-6）東側の黄色枠内の場所を訓練場所とする。

なお、西側の青色枠内の箇所を、参加者・関係者の駐車場として使用する。

3. 実施日時



令和 6 年 10 月 7 日（月） 13:00～16:00

4. 講師

一般財団法人日本環境衛生センター 事業推進役兼防災対策統括プロデューサー 鈴木 弘幸

（参考：講師の略歴）

環境省職員として、大臣官房総務課長補佐、危機管理調整官、リサイクル推進室室長補佐等を歴任。環境教育、プラスチック資源循環等の制度設計、水銀に関する水俣条約、地域 SDGs 推進等の幅広いテーマを担当した経験を持ち、とりわけ東日本大震災の発災時には、首相官邸の危機管理センターで災害対応の実務に当たるとともに、地方公共団体による地域防災計画や災害廃棄物処理計画の作成支援に携わった。

5. 参加者のグループ分け等

参加者は、8月23日（金）に実施した、災害廃棄物人材育成研修会のグループをもとに、事前におおむね6名程度のグループに分ける。訓練中はグループごとに色分けしたビブスを着用する。

グループ分けは、実際の発災時の人脈づくりや連携促進にもつなげるため、近隣地域の参加者が同じグループになるよう調整する。

参加者には、作業衣等の汚れてもよい動きやすい服装、靴、ヘルメット、軍手の準備を事前に依頼する。

6. 訓練会場のレイアウト

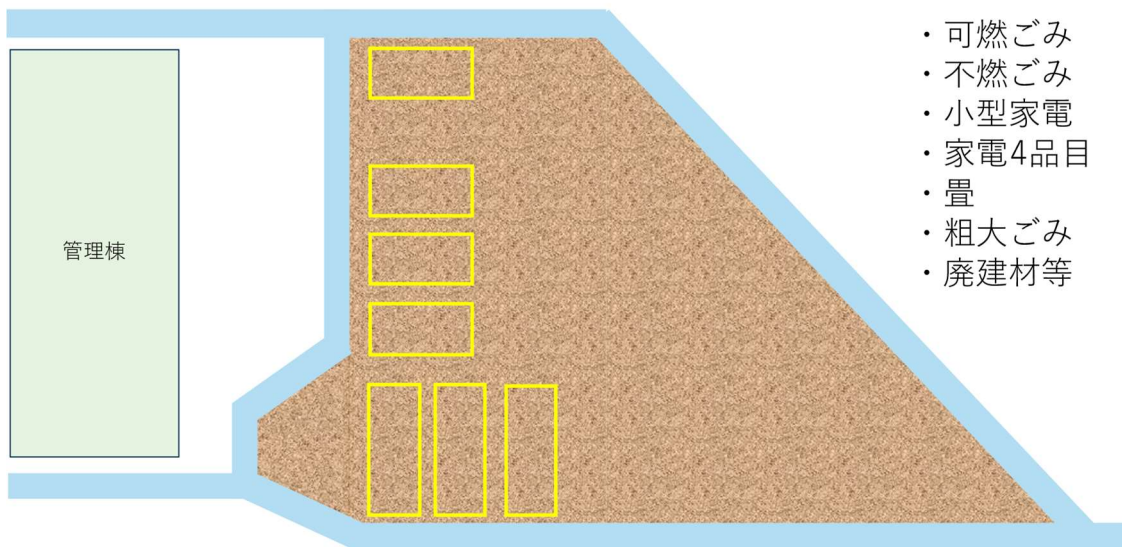
下記の配置を想定している。分別置き場の北側が搬入レーン、南側が搬出レーンとなる。

分別は7分別とし、各置き場の幅は概ね約6 mとする。

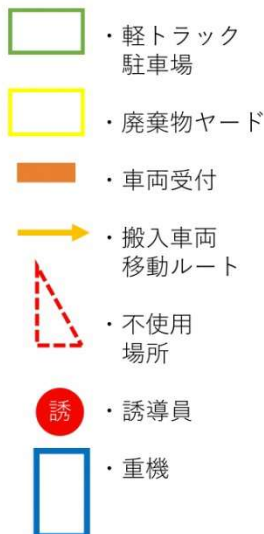
見学者・待機場・報道関係者等が着座するテントを設置し椅子、音響機器等を準備する。

訓練会場のレイアウト

分別内容



これを実際の地形に当てはめると、下記のとおりとなる。



訓練内容

① 開会挨拶・オリエンテーション（13：00～13：30）

主催者及び開催地自治体（青森県、八戸市）の挨拶の後、日本環境衛生センター（JESC）から仮置場についての簡単な講話や、今回想定した災害による廃棄物の種類や量、本日の訓練の流れ等のオリエンテーションを行う。

② 仮置場の設営訓練（13：30～14：10）

6グループで分担して、7分別の仮置場を設営する。

まず、「設営前の写真」を撮影する。

その後、ブルーシート・カラーコーン・バー・工事用立て看板・看板に貼付する分別表示紙等を使用し、設営する。

具体的には、下記の手順となる。

- I. 置場の境界をカラーコーン2本とバー1本で区切る
- II. ブルーシートを敷き、四隅にカラーコーンを置く
- III. 立て看板に分別表示紙を貼り、置場に設置する（下記写真のイメージ）



この際、「一部立て看板が用意できていない状態」を演出し、どのようにすればよいかをグループで討議し発表する。

最後に「設営後の写真」を、工事用黒板等を使用し、撮影する。この際、敷鉄板と重機の撮影も行う。

（10分休憩）

③ 災害廃棄物受入れ訓練（14：20～15：10）

被災者による軽トラでの持ち込みは、下記の3パターンで行う。荷下ろし完了までの時間をそれぞれ計る。A・Eグループは、実際に多いと想定される「乱雑に混載された車両」の対応を行う。搬入役住民（講師が務める）と受付・荷下ろし担当者との会話を、それぞれが持っているワイヤレスマイクで全員に聞こえるようにする。時間があれば、グループ討議と発表を行う。終了後、「受入れ開始時点の写真」の撮影を行う。

- I. 乱雑に混載したごみ（ブラウン管テレビ、生ごみ含む）の持ち込み→A・Eグループが対応
- II. 整然と積載されたごみ（不適切な疑いのあるものは含まない）の持ち込み→B・Fグループが対応
- III. 乱雑に混載されたごみ（ブラウン管テレビ、生ごみ含む）の持ち込み（主張が強い排出者）→Cグループが対応
- IV. 単種類のごみだけを積載した持ち込み軽トラがそれを追い越していく（※）→Dグループが対応

※令和2年7月豪雨（熊本豪雨）時に、人吉市で試みたファストレーン方式を模式的に再現。単種類のごみだけを持ち込んできた車両は優先的に受け入れることで、単種類の持ち込みを促した事例。

④ 災害廃棄物積み込み搬出訓練（１５：１０～１５：３５）

八戸市最終処分場の災害ごみ受入基準等の概要説明を行う。

八戸市最終処分場の受入れ基準および受入れ方法に沿い、八戸市最終処分場に搬出する「粗大ごみ」（受入基準における「家具」机・タンス・収納ケース等に該当するもの）を、重機（バックホウ・アームロール車）で搬出する。

重機使用訓練時によくありがちな、自治体職員が「見ているだけ」の状況にならないよう、自治体職員の指示・確認により動くという構成にする。

具体的には、下記の概要で実施する。

- I. Aグループが「八戸市最終処分場に搬出する粗大ごみの積み込みをお願いします」と指示を出す。それに基づき、アイアンフォーク付きバックホウで着脱式コンテナへの積み込み作業を行う。
- II. 積み込みが完了した時点で、Bグループが、積み込み完了したコンテナ内部の写真を、工事用黒板を使用して撮影する。その後、「内容確認完了しました。八戸市処分場への搬出をお願いします」と指示を出す。それに基づき、コンテナのトラックへの装着と、車両の出発を行う。

⑤ 講評等（１５：３５～１６：００）

グループごとに、本日の訓練全体の振り返りや気づきを、５分程度で議論し、その結果を発表する。

その後、講師から全体の講評や自治体職員の心がまえなどの話をする。